

深谷市誕生20周年記念  
新札発行1周年記念事業

令和7年度

# こども学びスタin深谷



## 青少年健全育成深谷市民大会

こどもたちの成長と挑戦を応援する  
特別なステージを見届けてください

日程：令和7年12月14日（日）

12時30分開演（12時00分開場）

会場：深谷市民文化会館 大ホール

## 作品集

主 催：深谷市・深谷市教育委員会・深谷市子どもサポート市民会議・深谷地方ユネスコ協会  
お問い合わせ：深谷市こども青少年課 048-574-6646 深谷市教育委員会学校教育課 048-572-9578

## \*\*\*\*\* 目 次 \*\*\*\*\*

|                                                    |    |
|----------------------------------------------------|----|
| プログラム .....                                        | 3  |
| 令和7年度「こども学びスタin深谷」について .....                       | 4  |
| 「中学生の主張」 作品紹介・審査員紹介 .....                          | 5  |
| ■山口 花歩 蕨南中学校 3年 青空教室 .....                         | 6  |
| ■荻野 柚月 深谷中学校 3年 一生の思い出 .....                       | 8  |
| ■戸塚 大雅 南 中 学 校 3年 自分にできること<br>～ほんの少しの手間が地球を救う～ ... | 10 |
| ■富山 莉緒 藤沢中学校 3年 ジェームスが教えてくれたこと...                  | 12 |
| ■齋藤 史己 上柴中学校 3年 子供達の未来を守るために...                    | 14 |
| ■本橋 怜奈 幡羅中学校 3年 将来の夢 .....                         | 16 |
| ■平野 紅子 明戸中学校 3年 将来への思い .....                       | 18 |
| ■石川 陽大 豊里中学校 2年 努力の本質 .....                        | 20 |
| ■日比谷桜海 岡部中学校 3年 あいさつの大切さ .....                     | 22 |
| ■浅賀 友翔 川本中学校 3年 未来は選択の連続 .....                     | 24 |
| ■橋本 素優 花園中学校 3年 左利きの真実 .....                       | 26 |
| 中学生による英語弁論 作品紹介 .....                              | 28 |
| ■豊岡 結 南 中 学 校 3年 A Turtle That Changed My Life     |    |
| 子どもの暗唱 .....                                       | 30 |
| 「栄一翁みらい宣言」作品紹介 .....                               | 31 |
| 「3つの運動」標語コンクール 作品紹介 .....                          | 40 |
| 「絆・ふれあい」ポスターコンクール 作品紹介 .....                       | 43 |

## \*\*\*\*\* プログラム \*\*\*\*\*

|                              |             |
|------------------------------|-------------|
| 1 開会行事 .....                 | 12:30～12:50 |
| (1)開会のことば 深谷市子どもサポート市民会議副会長  |             |
| (2)主催者あいさつ 深谷市長              |             |
| (3)主催者あいさつ 深谷市教育委員会教育長       |             |
| (4)主催者あいさつ 深谷市子どもサポート市民会議会長  |             |
| (5)来賓あいさつ 深谷市議会議長            |             |
| (6)来賓紹介                      |             |
| (7)主催者紹介                     |             |
| 2 「中学生の主張」 発表 .....          | 12:55～14:05 |
| 3 中学生による英語弁論 .....           | 14:05～14:15 |
| 4 子どもの暗唱 .....               | 14:15～14:45 |
| 《休 憩》 .....                  | 14:45～15:00 |
| 5 「栄一翁みらい宣言」表彰 .....         | 15:00～15:30 |
| 6 「3つの運動」標語コンクール 表彰 .....    | 15:30～15:35 |
| 7 「絆・ふれあい」ポスターコンクール 表彰 ..... | 15:35～15:40 |
| 8 「中学生の主張」 表彰・講評 .....       | 15:40～16:10 |
| 9 閉会のことば 深谷地方ユネスコ協会会長 .....  | 16:10       |

司会

山田 紗良 (埼玉県立熊谷西高等学校 1年)  
令和6年度 「中学生の主張」 最優秀賞 受賞

## ❖❖❖❖ 令和7年度「こども学びスタin深谷」について ❖❖❖❖

### 目 的

少子高齢化の進行や高度情報化、グローバル化の進展、価値観の多様化など、こどもを取り巻く環境は大きく変化しています。

深谷市では「第2次深谷市総合計画」を策定し、「健康でいきいきと暮らせるまち」や「次代を担う人と文化を育むまち」を目指しています。

また、地域とともに青少年を育成する体制整備に、市民、関係団体、教育機関と連携しながら、地域全体で青少年の健全育成を支援しています。

次代を担うこどもがたくましく、健やかに成長するためには、知恵・心・体をバランスよく、確実に身に付けることが大切です。そのため、郷土の偉人・渋沢栄一翁が大切にした立志と忠恕の精神のもと、幼児教育の充実、次代を担う人を育成するために必要な教育環境づくり、学校と家庭・地域が連携した地域の教育力の向上などにより、こどもが社会を生き抜く力を身に付けるための教育を推進しています。

「こども学びスタin深谷」は、「中学生の主張」の発表、中学生による英語弁論、子どもの暗唱、「栄一翁みらい宣言」の表彰、「3つの運動」標語コンクールの表彰、「絆・ふれあい」ポスターコンクールの表彰など、こどもたちの学びの様子がよくわかり、こどもたちの成長を広く見渡せる事業であります。

この事業を通し、多くの地域の方や保護者に、深谷のこどものがんばりを見ていただき、学校、地域、家庭でこどもを認め励まし、総ぐるみで未来の深谷を担う自覚を持ったこどもを育てていくことをねらいとして実施しております。

## 中学生の主張

### 目 的

「中学生の主張」では、中学生が、日頃考えていることを論理的に整理し、作文にします。それと同時に、社会の動向について調べ、理解するきっかけとなることを目的としています。また、作文を多くの人の前で発表することで、自己表現のスキルを磨き、自身の能力の向上を図ります。

そして大人は、中学生の発表を通して、青少年がおかれている状況への理解を一層深め、青少年健全育成活動の推進に努めることを目的としています。

### 対象者

深谷市在住・在学の中学生

### 募集テーマ

日常生活において、普段から考え感じていること、チャレンジしていることなど、広く市民に訴えたいこと。

### 応募数

470点

### 賞

最優秀賞 1点    優秀賞 2点    優良賞 8点

### 「中学生の主張」審査員紹介（順不同・敬称略）

|     |        |                                  |
|-----|--------|----------------------------------|
| 委員長 | 染谷 明信  | 深谷市教育委員会教育部次長兼学校教育課長             |
| 委員  | 山本 和憲  | 深谷市子どもサポート市民会議会長（深谷市自治会連合会 副会長）  |
| 委員  | 梅澤 修   | 深谷市子どもサポート市民会議副会長（深谷市校長会 副会長）    |
| 委員  | 飯野 美枝子 | 深谷市子どもサポート市民会議副会長（青少年育成推進部会 部会長） |
| 委員  | 関口 茂好  | 深谷市子どもサポート市民会議副会長（深谷市PTA連合会 会長）  |



## 青空教室

東京成徳大学深谷中学校3年 やまぐち かほ 山口 花歩

皆さんは青空教室という言葉をご存じですか。多くの方は「外で行う開放的な校外学習」のようなイメージをしたいと思います。しかしこの場で取り上げるのは「仕方なく」行っている青空教室です。戦後間もなくの日本であればともかく、世界単位で見たら現代でも存在する青空教室。戦争や災害によって建物が壊れ、野外で授業をせざるを得ない状態ゆえの「青空教室」なのです。

たくさんの子どもたちが土の上に直に座っており、その後ろには木の影が伸びている。屋根や壁はもちろん、黒板すらない。これが教室と呼べるのでしょうか。

フィリピンにある青空教室では、今日もたくさんの子どもたちがぼろぼろの本を開いて熱心に勉強しています。大きな台風で建物が飛ばされて何年も建て直されていない。でも子どもたちは通学にどれだけ時間がかかろうと青空教室に行こうとするのです。

「黒板がなくても地面に書けばいい」「椅子がなくても石に座ればいい」こんな考え方は日本では当然できません。勉強したくない、などと思ってしまうのは恵まれている環境があるからこそ思うことなのです。

さらに、青空教室の背景を見ると衝撃の事実が隠されていたのです。青空教室は野外で行われるがゆえに、天候に授業の進行が左右されます。しかし暑かろうが、雨が降ろうが、教師達は工夫を凝らし、紙芝居や歌を交えて興味関心を引き、木陰を見つけて体温調節に努める。まさに努力と情熱の教育なのです。

教育を受ける権利は「人権」の一つです。しかし、その権利

が不本意に奪われてしまっているのです。もしかしたら、青空教室の子どもたちは、「勉強すること」自体が一種の心の救いなのかもしれません。子どもたちが目を輝かせて本を読んでいる姿を見るとそう思えてならないのです。

学ぶとは何か。教室とは何か。青空教室を見るにつけ、現代の日本で生きている私たちにとっては、当たり前で気にも留めていなかったことが大きな意義をもっていることに気づかされるのです。

かつて日本にも青空教室が存在しました。今年は戦後80年の年に当たりますが、第二次世界大戦直後の日本は敗戦により焼け野原と化しました。家はおろか学校さえも燃えてしまいました。にもかかわらず、子どもたちは学びを求め、そこから青空教室が始まりました。焼け野原の中でも、子どもたちは生き生きと大地の下で学び続けました。その姿は、戦後を生き抜き子供たちが生きる強さと希望でもあったと思うのです。

青空教室は決して理想的な学びの場とは言えません。しかしそれは学びへの強い意志と希望の象徴であると思います。そのような学びを諦めない姿勢、子どもたちが持つ大きなパワー、つまり青空教室には現代の私たちが忘れていた大切な何かを教えてくれているような気がしてなりません。

現在、青空教室への支援が世界単位で行われています。JICAやユニセフなどの機関を通じて、日本人も青空教室を体験し、子どもたちに授業をしている方もいます。フィリピンの子どもたちには限らず、世界各国で青空教室は今日も行われています。私は青空教室で「もっと学びたい」と思っている子どもたちのために、何かできることはないかと考えるようになりました。まだまだ中学生ではありますが、将来はそのような子どもたちのための支援や援助に関わる仕事に就けたらと本気で考えています。

満足な教育を受けられることは当たり前ではない。この事実を胸に刻んで、今ある当たり前に感謝しつつしっかり勉強し、日々を大切に過ごして行きたいと思います。





## 一生の思い出

おぎの ゆづき  
深谷中学校3年 荻野 柚月

みなさんは、自信をもって全力で頑張ってきたと言えるものがありますか。また、自分を元気づけてくれるものやかけがえのないものはありますか。私にとって、それは中学校生活の約3年間、全力で取り組んだ吹奏楽です。今から私の人生を大きく変えてくれた部活動についてお話します。

私と吹奏楽との出会いは中学校に入学してからでした。吹奏楽部の部活動体験に行くと先輩方が優しく教えてくださり、初めて生の演奏を間近で聞いたとき、その素晴らしい演奏に感動し、私も先輩方のような演奏がしたいと思い、迷わず入部を決めました。

大きな憧れを抱いて始めた吹奏楽でしたが、待っていたのは想像を超えたハードな練習の日々でした。私の楽器はユーフォニアムで、最初は思ったような音が全く出ず、悔しくて悲しくて、それでも諦めずたくさん練習をしました。先輩方が励まして下さり、練習を重ねるうちに少しずつ音が出るようになりました。

私が初めてコンクールに出たのは1年生の7月でした。初めてのステージは緊張で手が震え、楽器に息を入れることすらできませんでした。先輩方の気迫に圧倒されながらも必死に演奏した結果、金賞を受賞し、県大会も出場することができました。あのときの感動は、今も心に残っています。

さらに、私たちの学校は、動いて演奏する「マーチング」にも挑戦しました。毎日の練習は大変でしたが、それ以上に仲間と協力して作る音楽は、苦しさを吹き飛ばすほど楽しかったです。そして、努力が報われ、マーチングで西関東大会に出場できたとき、大変なことを乗り越えたからこそ喜びがあることを心から実感しました。

毎日毎日楽器と向き合いながら日々を過ごしているうちに、いつしか私は先輩と呼ばれる立場となり、副部長として部をまとめました。2年間お世話になった顧問の先生が異動してしまい、大きな不安の中で迎えた新年度。新しい顧問の先生と新しく入部してきた1年生とともに新体制での活動が始まりました。今年からマーチングはしないということに戸惑いを感じながらも、顧問の先生とたくさん話し合いを重ね、私たちは全員で座奏だけに力を注いで曲を完成させることに気持ちを固めました。その分、絶対に県大会を越えてやるという気持ちで、部員一同、一丸となって練習に励むことができました。

そして迎えたコンクール。私たちの出番は16団体中の2番。審査員に印象を残すには厳しい順番でした。しかし、「攻めの音楽で行くぞ。」という先生の言葉で私たちの心から不安が消えました。これまで練習してきた自信が私たちを支えてくれたのだと思います。自信と先生の言葉を胸に演奏した12分間。顔を真っ赤にして全力で演奏する仲間の姿。演奏に集中していたはずなのに、なぜかみんなの姿がかつこよく見えました。私たちの音楽がたくさんの人に伝わるといいな、とただそれだけを思いながら演奏した時間は忘れられません。

そして、結果発表。私たちは1位で県大会出場を決めました。県大会では地区よりさらに良い演奏ができたと自負していますが、結果は銀賞。あと一步で西関東大会に出場できる順位でした。とても悔しかったのですが、深谷中史上、最高の結果を出せたことはうれしく、仲間と共に頑張ってきた日々を思うと思わず涙が溢れました。

振り返ると、私にとって吹奏楽はかけがえのないものになりました。辛いことや大変なことはたくさんあったけれど、たくさんの方々のおかげにいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。そして、今は楽しかったことだけが心に残っています。楽譜ひとつ読めなかった私が、仲間や家族、先生方の支えや努力で成長できたことは、これからの人生において、様々なことに挑戦し、困難があっても諦めずに乗り越えていく力になると信じています。



## 自分に今できること ～ほんの少しの手間が地球を救う～

とづか たいが  
南中学校3年 戸塚 大雅

「明日も熊谷は40度の予報です。」「熱中症で救急搬送された人が沢山いた」、こんなニュースを何度も聞いたこの夏。もちろん私たちの学校でも「今日は暑さ指数が基準を超えたので、昼休みの外遊びは中止」とか、「部活動は運動中止」などと活動が制限され、ここ数年で暑さが異常に増している。中学生の自分でさえ、年々暑くなってきたと実感するくらいだから、地球が危機的な状態だということもわかる。

そもそもの温暖化の主な原因は、われわれ人間の活動によって排出される温室効果ガスによるものである。まず、化石燃料の燃焼だ。石油や石炭、天然ガスを燃やして電気を作ったり、自動車や工場で使ったりするときに大量の二酸化炭素が排出される。2つ目は、森林伐採。森林は二酸化炭素を吸収してくれる役割があるのに、必要以上の伐採により、吸収量が減ってしまっている。どれも、私たちが生活していくうえで必要不可欠なものである。よくよく考えると、われわれの生活が便利になったことで、温暖化が深刻になっていることに気づく。今の生活をつづけ、このまま温暖化が進行していくと、どうなるのか。今まで以上に猛暑日や強力な台風に加え、食糧不足を引き起こすなどして、多くの人々の生活や命までも脅かす事になってしまう。もはや、これは未来の話ではない。私たちが大人になる頃には、より深刻なものとなってしまう。温暖化の原因が人間の活動によるのであれば、人間の活動によって、温暖化にストップをかけて、安心した未来を創ることができるのではないか。

でも、ほとんどの人がこの対策について、「僕1人が頑張っても意味ないでしょ？」と聞いていませんか？確かに、たった

1人の行動で来年の夏の平均気温が2度下がるわけでもない。では、私たちはこの大きな問題に対して無力なのだろうか。いや、決してそんなことはない。一人一人の小さな行動が、大きな力になると信じている。簡単にできること、便利さを求めるだけでなく、少し手間がかかっても毎日できることを積み重ねればいい。例えば、エコバッグを使う、節電する、物を大切に長く使い、ごみを減らす。マイボトルを持ち歩く、公共の交通機関を使う。少し手間かもしれないけど、不便ではないし、地球を救うためなら習慣にできることだ。

更に、私たちは消費者として、環境に配慮した製品を選ぶという選択肢を持っている。最近では、スーパーでも「環境にやさしい」と書かれたマークのついた商品を目にする事が増えた。そのような商品を選ぶことは、間接的に温暖化対策に参加する事につながっていく。

たとえ小さなことかもしれないけれども、まずは自分が、その活動を見た家族や、友人が。そうしてどんどんそういう意識や行動が広がれば大きな力になる。もし世界中の人々がこの小さな行動を実践していけば、きっと膨大なエネルギーを節約でき、温室効果ガスの排出を抑えることができる。もしかしたら来年の夏の平均気温も1度下がるかもしれない。大雨による被害や、熱中症による死者も少なくなるかもしれない。

さあ、この会場にいるみなさんも、今から、行動をしましょう。ほんの少しの手間が地球を救います。



## ジェームスが教えてくれたこと

はたけやま りお  
藤沢中学校3年 畠山 莉緒

私の将来の夢は獣医である。私は幼い頃から様々な動物を飼っていて、常に動物がいる生活を送ってきた。そんな私にとって、かけがえのない動物が病気や怪我を患った時に、いつも助けてくれるのは獣医の方々だった。大切な家族の一員である、動物の命を救ってくれる獣医の方々の姿は、私にとって幼い頃からの憧れの存在だった。

私は小学生の頃、ジェームスというブルドッグを飼っていた。ジェームスは力強く元気いっぱいブルドッグだった。散歩に行くと強い力でリードを引っ張ったり、勢いよく走り出すことがあり、ジェームスを抑えることが大変で、転びそうになることもよくあった。また、他の犬に吠えることもあったけれど、怖がり屋な一面もあってあまり近づけないところも、ジェームスらしくて、とてもかわいかった。動物病院に行く時には、いつも他の犬や猫を見て緊張している様子だったことを覚えている。1メートル程の高さの診察台に乘せる時には、獣医の方と母が2人がかりでジェームスを持ち上げていたり、いつも強気だけれど診察台に乗ると怖くて震えてしまうところもかわいくて、獣医の方と笑いあったこともあった。

そんなジェームスがある夏の日突然、元気をなくした。食欲もなくなり、今までのようにリードを引っ張ることもなく、歩くのがゆっくりになっていた。心配になって動物病院に連れていくと、検査の結果、病気が見つかった。獣医の方はジェームスの状態を丁寧に説明したり、出来る限りの治療をしてくれた。それでもジェームスの体は少しずつ弱っていった。母は毎日のように動物病院に通い、私も出来る限り通うようにしていた。病院に行けた時には、ジェームスを撫でたり、声をかけた

りしたけれど、反応は薄く、状態は悪くなる一方で、もう先は長くはないのだと分かってしまうのが怖かった。

ある日、私が学校から帰って家に入ると、母は「おかえり」と言った後に「動物病院から連絡があって、ジェームスが、」と言いかけたものの、その後は言葉が続かなかった。まさか、と思ったけれど、私の予想通りだった。すぐに母と病院へ向かうと、ジェームスの体はすでに、少し冷たくなっていた。ただ眠っているだけだと思ったかった。

動物と共に暮らす中で、幸せに感じる事が沢山あるように、別れなどの悲しい出来事もある。そんな中、獣医の方々が全力を尽くし、最後のときまでジェームスに寄り添ってくれた姿は、私が小さい頃から憧れている、獣医そのものであり、私たちにとって、大きな心の支えになってくれた。私が獣医の方々に助けてもらったように、今度は私が誰かの大切な家族を守る存在になり、少しでも多くの動物の命を救いたい。そして、私たちに幸せを与えてくれる動物に、私も幸せを与えたい。だからこそ、動物との限られた時間を大切に、獣医の方々が見せてくれた優しさや責任感、そしてジェームスが教えてくれたことを胸に、私は獣医への道を歩んでいく。



## 子供達の未来を守るために

さいとう あやみ  
上柴中学校3年 齋藤 史己

私の将来の夢は、助産師になることです。私が幼稚園の頃に、母と一緒に見た『コウノドリ』というドラマで、産婦人科の医師や看護師と共に出産のお手伝いをし、産後のお母さんの心のケアまでサポートする助産師という存在を初めて知りました。命の誕生という奇跡の瞬間に立ち会い、お母さんと赤ちゃん、その家族を支える仕事に深い憧れを感じました。その時感じた憧れは、今も持ち続けています。しかし一方で私は、今の日本の状況に不安も抱いています。本当にこの社会で、子供達が安心して生まれ育っていけるのか。テレビのニュースに目を向けると、暗いニュースばかりが耳に入ってきます。

2022年、ウクライナ戦争が勃発しました。テレビの画面に映るのは、爆撃に怯える子供達の姿、破壊された街並み。私は21世紀というこの時代に、再び武力による争いが起こったことに愕然としました。戦争は憎しみと悲しみの連鎖しか生みません。親を失う子、子を失う親…誰一人幸せにならないその現実、人間の愚かさを突きつけられた気がしました。

同じ頃、世界中で新型コロナウイルスが猛威を振るい、私達の生活も大きく変わりました。私自身、教室で友人と自由に話すことができず、合唱で大きな声を出すことすら禁じられ、たくさん行事も中止になりました。マスクの下にある表情が見えないまま、人との関わり方に戸惑い、やがてマスクを外すことにすら恐怖を感じるようになりました。目に見えないウイルスとの戦いは、幼い私の心にも確実に影を落としました。

私は「命」について深く考えるようになりました。ウクライナ戦争で奪われる命、コロナで孤独の中に置かれた命、そしてこれから生まれて来る命。私が助産師を目指すようになったのは、そうした命にまつわる現実と、自分が幼いころに抱いた憧

れが重なったからです。

そんな中、助産師という職業を強く意識するニュースを目にしました。我が子の命をお腹に宿し、10ヶ月間、大切に育ててきたにも関わらず、出産後の産後うつに苦しみ、相談も頼ることもできないために赤ちゃんに手をあげたり、ネグレクトをしてしまったりする母親が後を絶たないという報道でした。平和に子育てができる国であるにも関わらず、なぜそんなことが起こるのか…私はとても胸が痛くなりました。しかしながらその背景には、現代の子育て世代に対する理解と支援の不足があることに気づきました。もっと安心して子供を産み育てられる社会であってほしい。そんな思いに強く胸を突き動かされ、私は命を支える最前線で直接、産後の精神・肉体両分野において共に乗り越えていける存在である助産師になりたいと決意しました。

中学最後の夏休みに私は、保育園で保育ボランティアに参加しました。小さな子供達は、暑さに負けず笑顔いっぱい遊びながら、ふとした瞬間に「今日はママが早く迎えに来てくれるんだよ!」と嬉しそうに伝えてくれたり、お昼寝の前に、「お昼寝が終わったらママが来るんだ。」と話してくれました。その言葉の一つ一つから、親子の深い繋がりや絆、温かさを強く感じました。そして改めて、子供にとって「安心して甘えられる大人の存在」がどれほど大切かということに私は、胸が締め付けられました。

日本では今、少子化が進み、子供を産むということ自体にためらいを感じる人が増えています。けれども、子供は未来を創る存在であり、社会全体の大きな希望の光です。その希望を育むには、平和で安心に満ち、支え合える社会が不可欠なのです。

私は助産師という夢を通して、生まれてくる命に寄り添いながら、社会全体にも命の大切さを訴えられる存在になりたいと思っています。そして、全ての子供達が「この世界に生まれてきてよかった」と思えるような社会を築く大人になりたいです。夢を叶えるその日まで、努力することを惜しまず、今の自分を超えていけるような自分になりたいと思います。





## 将来の夢

もとはし れな  
幡羅中学校3年 本橋 怜奈

私の将来の夢は、教師になることです。2人の先生との出会いが、私を大きく成長させてくれました。その経験から、生徒を励まし支えられる存在である教師になりたいと思うようになりました。

1人目は生徒会の先生です。私は学校やクラスのために何かしたいと思っていたのですが、自分に自信がなく、手を挙げられませんでした。そんな時、先生に、「一緒に学校を改革してみないか」と励まされたことで前向きな気持ちになれ、勇気を持って生徒会役員に立候補しました。生徒のために活動する機会に恵まれ、大きく成長できました。初めは人前で話すことが苦手で、意見をうまく伝えられませんでした。仲間と協力して行事を企画し、全校生徒の前で説明する経験を重ねるうちに、少しずつ自信を持って行動できるようになりました。

新入生歓迎会の準備では、生徒会を中心に計画を立てて役割を分担し、時間内に仕上げるのが求められました。先生からは「1年生が先輩の輪の中にどうやったらスムーズに入れるかを考えて、進行するように」とアドバイスをいただき「幡羅の絆を深めるための猛獣狩」というゲームをみんなで企画しました。当日、うまく進められるか心配でしたが、予想以上に盛り上がりほっとしました。責任を持って仕事を進める経験は、社会で働くときの力につながると感じました。大変なこともありましたが、みんなで協力して成功させたときの達成感は忘れられません。

生徒会活動で学んだ協力する力や責任感を、教師として生かしたいと思い、将来の夢が決まりました。

私たちが楽しみにしている学校行事は、いつも大きな盛り上

がりをみせます。しかし、その裏で先生方がたくさん準備してくださっているということを生徒会活動を通して知りました。体育祭では練習の計画や道具の準備、修学旅行では現地での調整や安全管理など、私たち生徒が気づかないところで先生方が沢山支えてくださっていました。

行事当日、先生方の努力のおかげで、私たちは思いきり楽しんだり全力で取り組んだりできました。大変なことも多いはずなのに、私たちが楽しい思い出をつくれるように一生懸命に動いてくださる姿に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

そして、先生方は生徒に負けないくらいいつも全力で楽しそうです。幡羅中学校の先生方の熱量は、すごいと感じることが多いです。先生方の言葉や行動は、私の心に強く残っています。

2人目の先生は顧問の先生です。「普段の生活が大切な場面に出る」と繰り返し教えてくださり、普段の生活態度や習慣がいざという時に大きな結果を生むということを教えてくださいました。

部活動で毎日しっかりと練習に励んでいる人は、大会でその積み重ねが力となって表れます。逆に、普段から準備を怠っている人は、いくら直前に努力しても思うような成果を出せません。このように、結果は偶然ではなく、日々の行動によってつくられるのだと学びました。また、人との関わりの中でも日頃の行いは大切です。普段から友達や先生に対して誠実で親切に接している人は、困ったときに自然と周囲から助けてもらえます。私は、日頃の行いを大切にすることは、自分を成長させるだけでなく、周りの人との良い関係を築くためにも欠かせないことだと部活の先生から学びました。

近年、「教師は大変だ」と言われることをよく耳にします。しかし、教師は一人一人の生徒と真剣に向き合う仕事です。生徒の悩みに気づけなかったり、うまく支えられなかったりするかもしれないと思うと、責任の重さを感じます。それでも幡羅中の先生方をみて、教師はとてもやりがいのある仕事だと感じます。生徒の成長をそばで見守り、挑戦するきっかけを与えることができるのは教師ならではの魅力です。生徒を導き、物事に向き合う姿勢を示せる教師に私はなりたいです。



## 将来への思い

ひらの べにこ  
明戸中学校3年 平野 紅子

みなさんは小さいころから一緒にいる友達はいいますか？私には、小学1年生のころから一緒にいるクラスメイトがいます。私達の学校は人数が少なくクラス替えをしたことがありません。そして中学校もほとんどみんな一緒なので9年間もの間、共に生活してきました。そんな人数が少ない明戸中ですが、少人数でよかったと思ったこともたくさんあります。球技大会や体育祭は全校生徒が一体となり、学年関係なく、全員が全力で取り組むことができます。一学年の人数も少ないため、一つ一つの行事に全員が全力で取り組むことができます。そのおかげで修学旅行では、計画していなかった夜の散歩も成功させることができました。それは、みんなが、一人一役で自分の役割を果たしたからだと思います。みんなで協力した修学旅行だったからこそ、楽しい思い出にすることができました。

私はこの9年間で、「一人一人と向き合い、相手を理解する力」を身につけることができました。そして私達はお互いの良いところと悪いところを理解し合っています。

以前、意見が合わず、まとまらないときにお互いが歩み寄り、一人一人の思いを大切にしてみんなが納得できる答えを見つけ出すことができました。また、自分一人ではできないことがあったときに仲間が気づき、行動してくれたことがありました。

ですが、中学3年生になり、高校進学を控えた今、心配なこともあります。それは、進学先には今までのように自分を理解してくれる人がいないかもしれないということです。中学校の先生に「今まで待っていてくれたことも高校では待ってくれないし、自立しないとダメだよ。」と言われました。こ

の言葉を聞き、すごく不安になりました。また、9年間、人間関係にあまり変化がなかったので、友達の作り方がわかりません。高校に進学したときのことを考えると、不安が募るばかりです。

しかし、私にはこれまでの9年間で培った力があります。少人数の明戸中で過ごしたことはとてもいい経験であり、私を成長させてくれました。今まで培ってきたこの力は、今後の生活でも役に立つと思います。高校に入学したら新しい仲間との出会いがたくさんあると思います。そのときに、「一人一人と向き合い、相手を理解する力」を発揮し、相手の話をよく聞き、相手のことをしっかり理解できるようにしたいです。そして、新しく出会った人達と仲良くなりたいです。

新しい環境で新しい友達を作るとき、はじめはとても緊張すると思います。しかし、それはみんな同じだと思います。初めて会う人と仲良くなれるのかという不安は大きいですが、これまでに培ってきた自分の力を信じて、新しい一歩をしっかりと踏み出せるようにしたいです。

明戸小、明戸中の9年間で培った力をさらに伸ばしていけるように、これからの中学校生活の一日一日を大切にしていきたいです。私は明戸中のかけがえのない仲間と一緒にこれからも成長し続けていきます。



## 努力の本質

いしかわ はるた  
豊里中学校2年 石川 陽大

「努力したのに報われなかった」

学校の帰り道で友人からそう言われた。私はその考えが正解なのか間違っているのか答えが明確に出せなかった。努力しても報われないというのはおかしい。なぜなら、今まさに活躍しているスポーツ選手や俳優などの有名人は人並み以上の努力をしていたと思ったからだ。才能だけで成功した人間は、ほぼいがないと言っていいだろう。そして、努力しても成功できなかった人間も多くいると思った。その人達は成功した人達よりも人数が多いだろう。では、努力しても報われないことは本当にあるのだろうか。

より詳しく知るために、インターネットや辞書などを使って調べてみることにした。まずは、辞書で「努力」という言葉の意味について調べてみた。目標のために心や体でつとめることだそうだ。この意味を踏まえると「努力したのに報われない」は、目標を達成するためにしっかりとつとめたのに達成することができなかったという意味になる。このような経験をした人、またはそのように感じた人が成功できなかったという人だ。もしかしたら報われない努力というのは本当にあるのかもしれない。しかし、もう少し調べているとあるプロ選手だった人の名言を見つけた。「努力は必ず報われる。もし報われない努力があるならば、それはまだ努力と呼べない。」

その通りだと思った。部活や習い事などで物事を3日前から始めた人と、その物事を5年や10年やっていた人では理解度は明らかに違う。

つまり、どれだけその物事に熱中できるかが大切なことだと思った。努力は決してあきらめずに最後まで取り組み、人一倍

頑張った人間にこそ言える言葉だと私は感じた。

また、もう1つ言えることがある。それは自分の限界を勝手に決めてしまっているというものだ。「どれだけやっても自分には無理だった。」と言われたし、努力をあきらめた人は誰でも自分にはこれが限界と思ったことは必ずあるだろう。しかし、本当にそうだろうか。確かに生まれつきの才能や他の人よりも早く物事を始めて学んだりした英才教育などによるもので、同じ年齢でも始めるスタートラインに違いはあるだろう。その人達と比較してしまうから、自分には才能がない、自分は今これが限界という間違った考えをしてしまうのだ。そもそも私達は同じ人間という生き物だ。明確に異なる違いなどない。同じように生まれ、同じように心も体も成長する。他の人にできて自分には決してできないことなんて絶対にない。つまり、自分の限界を自分で決めてはいけないのだ。頑張ったけれど無理だったと言い、あきらめてしまう人は他の物事でも成功することは絶対にない。

私は、友人の一言で努力について深く考えてみたが私自身、こんなことも言えるような努力はまだしていない。しかし、だからこそ頑張ってみるべきだと思う。人生に壁はあるだろう。そんな時こそあきらめないという考えを大切にして、私は人生を歩みたい。



## あいさつの大切さ

ひびや おうが  
岡部中学校3年 日比谷 桜牙

「みなさん、こんにちは！」

今、みなさんはあいさつをされて嫌な気持ちになりましたか。あいさつをすることは良いことだというのはみなさんも知っていると思いますが、実際に自分からあいさつができている人は、どれくらいいるのでしょうか。私はふと気になって調べてみました。あるサイトの調査結果によると、「日ごろからあいさつを心掛けているか」という問いに対して「心掛けている」という人が7割、そうでない人が3割だそうです。この結果を見て「大半の人があいさつできている」というよりも、「3割の人はあいさつができていない」という事実に驚きました。3割の人たちはどのような理由であいさつをしないのでしょうか。「面倒くさいから」「コミュニケーションを取るのが苦手だから」「タイミングが合わないから」などたくさん考えられます。私の友人の中には、あいさつをしたくない理由の1つとして「過去にあいさつを無視された経験があるから」という声も聞きました。その理由の改善策として、全員があいさつを心がければ誰もあいさつを無視されることがないと私は考えました。そうすれば「無視されるからあいさつをしない」という問題が解決でき、より多くの人があいさつをすることができます。

このように、今となってはあいさつをしないことに疑問を持つ私ですが、実は私は、小学生の頃、あいさつをされることがあまり好きではありませんでした。なぜなら、「おはようございます」「こんにちは」とあいさつをされても、恥ずかしくてそれに答えることができなかったからです。しかし、その一方であいさつをしてくれた方に対して、とても申し訳ない気持ち

になった自分もいました。

そんな中、私が自らあいさつをするようになったのは1つのきっかけがありました。中学1年生の頃、私は学童にいる弟の迎えに行きました。その時、自分よりも年下の男の子が「こんにちは！」と元気に、そして笑顔であいさつをしてくれました。私はつい微笑んで、気づいたら「こんにちは」と返していました。その子の元気なあいさつに、「あいさつをするとこんなに気持ちいいんだ」と感じました。しかし、それと同時に自分に情けなさも感じました。「どうして自分よりも年下の子の方があいさつができているんだ」と。考えれば考えるほど、恥ずかしい気持ちでいっぱいになっていきました。そこで私は「よし。これからは自分から積極的にあいさつしていこう」そう心に決めました。それから毎日のあいさつを心がけ、今ではあいさつをすることが当たり前と感ずることができています。

なぜあいさつをすることが大切なのでしょう。まず第一に、あいさつをするのとしないのでは気分の良さが全く違うと思います。そして、人とコミュニケーションをとる上で、あいさつをしないとお互いに気分が良くないと思います。私にもたまにあいさつを忘れてしまうという課題があります。その課題を克服するために人に会ったらまずあいさつをするということを常に心がけていこうと思います。皆さんにも常日頃からあいさつを心がけ、どんな人にも積極的にあいさつできるようになって欲しいと思います。





## 未来は選択の連続

あさか ゆうと  
川本中学校3年 浅賀 友翔

10年後、20年後、100年後…、私たちの未来はどうなっているのだろうか？

私は仕事をしているのだろうか。皆の上に立ち、慕われているのだろうか。そして、いつまで生きられるのだろうか。どんな未来になるのかは誰にもわからない。それが私たちの未来、私の未来なのだ。

私は今、生活がとても充実している。毎日気持ちよく起きられて、温かいご飯が食べられて、毎日学校に行くことができ、友達がいて、勉強ができて、快適な環境で寝ることもできる。果たして、この生活がずっと続くのだろうか。多分そうではなくなる日が来ると思う。そのうち家から離れて一人暮らしを始める日が来るかもしれないが、まだ確定しているわけではない。そもそも、その日まで生きているのかどうかもわからない。確実に言えることは何もない。未来とは一体どのようなものなのだろうか。

考えてみると、私たちは日常的に未来を予測している。

例えば、こんな場面を想像してほしい。日曜の夜や夏休みの終わりに、「明日から学校が始まってしまう…」と気が重くなったときのことを。こんなとき私たちは、「気が重いけど休まず行けば、友達に会えたり、おいしい給食が食べられたり、結局は楽しい1日になるだろう。」「面倒だからと休んでしまえば、その日は楽ができて、勉強が遅れたり、友達との会話に入っていけなくなったりするだろう。」という予測をして、どうするか決めていると思う。そして、学校に行った場合と休んだ場合では、実際にそのあとの出来事や状況が変わってくる。つまり、自分の選択で未来を変えることができるというこ

とだ。

明日テストがあるなら、大きく分けて「勉強する」と「勉強しない」の2つの選択肢が存在している。

「勉強すれば成績が上がり試験に合格する未来」、「勉強しなければ成績が下がり不合格になる未来」が見えてくと思う。だから自分のなりたいように未来を変えるには自分の意志を持ち、それに見合った努力、行動をしていくことが大切なのだ。

未来をより良くしたいと願う私は、今年受験生である。受験も自分の未来を決める1つのことだと思う。私は志望校に合格するために努力しているが、これを続けられるかによって自分の未来が決まってくる。同じように、普段やっている何気ないことも自分の未来を決める大切な選択なのだと思う。

小学生の頃、私は人前で話すことがとても怖かった。中学生になり、学級委員になると、以前と比べ人前で話すことが多くなり苦勞していた。ときには話す内容を忘れてしまったり、うまく声が出なかったりすることもあった。でも、私は挑戦し続けた。その結果、徐々に慣れてきて怖さも薄れてきた。失敗を恐れ挑戦しなかった私か、失敗を恐れずに挑戦し続けた私か。失敗を恐れずに挑戦する私を選択したことで、こうして今、多くの人の前で発表する私の未来を掴むことができたと思う。

今、未来のことが確実にわかるという人は、地球上のどこにもいないと思う。だからまずは、自分にとって良くなる未来を考え、どう動けばそれが実現できるのか、一つ一つ自分の意志で選択して行動することが大切なのだ。私達の未来は簡単には変えられないが、1つの行動が私達の未来を変えるエネルギーになると考えると面白い。意味のない選択はひとつもないのだ。だから私は、無数にある未来の中から、自分の未来を自分で選び取っていきたい。



## 左利きの真実

はしもと すう  
花園中学校3年 橋本 素優

みなさんは左利きと聞いてどのように思いますか？ 私は左利きなのですが、生きていの中で「左利きってかっこいい」「左利きになってみたい」と聞き飽きる程言われてきました。その「かっこいい」の裏側でどのようなことが起こっているのか、左利きの真実をお教えします。

左利きの日常に潜んでいる敵は、数え切れない程あります。例えば、自動販売機。飲み物を買おうとすると、左手で持ったお金を無意識に左隣にある別の自動販売機の投入口に入れてしまうことがあります。他にも自動改札機やエレベーターのボタンなど、一步外に出ると、何気ない所から小さな敵が現れます。世の中は、右利きの人に便利になるようにできているのです。私はそんな右利き優位な社会を、左利きの人にも優しく、ストレスフリーな社会にしたいのです。

確かにみなさんが言うように、左利きは珍しくて見た目はかっこいいし、スポーツでは相手が慣れていない左手でのプレーで有利になるというメリットもあります。ですが、デメリットが多すぎるのです。

私が今、生活の中で特に感じている不便は、給食当番の配膳と箸の向きです。給食は、当番の生徒が狭い配膳台に1列に並んで盛り付けをします。場所が狭くても、全員が右手に道具を持って盛り付けをすれば何の問題ありませんが、私だけが左手で盛り付けをしているので、左隣の人の右腕と私の左腕が当たってしまいます。立ち位置を変えても、左側に誰かがいる限り、必ず腕が当たってしまうのです。耐えられず私だけが配膳台の反対側に立って盛り付けようとすると、今度は給食を運ぶ人の邪魔になってしまうという謎の申し訳なさに押しつぶされ

そうになりながら当番をしています。そして給食当番を終えたと思ったら、食事前に箸の向きを変えるという一時間に直面するのです。配膳された箸やスプーンの向きはもちろん右利き用に持ち手が右、だから食べる前に向きを反対にしないといけません。とにかくほとんどのものは右利きの人に合わせられているし、狭い場所で作業をしようとする右利きの人と腕がぶつかり、どうしても肩身が狭くなってしまうことが本当に多いのです。

左利きの敵は、外の世界だけに止まりません。道具や文具などもまだまだ左利き用の製品は少なく、ハサミやカッターはもちろん、ボールペンはインクがかすれて出てこなかったり、ドアノブは回しにくかったり、急須は左手ではお茶を入れられなかったりします。

このような不便を聞いて、「こんな小さなこと、少し工夫して我慢すればいいじゃん」と思った人もいるかもしれません。しかし今あげた例は、左利きの人々が抱えているストレスのほんの一部にすぎません。この不便さを解消するためには、社会全体の意識を変える必要があります。

左利きの不便さをなくすことは、ただ、左利きの人のためだけのことでありません。それは多様な人々が暮らしやすい社会につながっていきます。左利きの割合は約10パーセントと言われていますが、そんな風に少数派を生きる人も他の人と同じようにストレスフリーな社会に暮らせていなければ、まだまだ「多様な社会」であるとは言いきれないのではないかと思います。企業やメーカーは、左利き用の製品を増やしたり、ユニバーサルデザインを取り入れたりするべきです。困っている人が一人でもいるのであれば、みんなでその人のためにできることを探していきましょう。この主張をきっかけに、少数派の人の心の叫びに耳を傾けてほしいです。そして、多様性を尊重し合える世の中に一步前進していきたいです。



中学生による英語弁論

## A Turtle That Changed My Life

とよおか ゆん  
南中学校3年 豊岡 結

Imagine you're swimming in the crystal-clear waters of Okinawa. You're enjoying the warm sun and the waves. And beneath you, a sea turtle gliding gently and freely through the water. Now, imagine that same turtle trying very hard to free itself from a fishing line wrapped around its body. Or even worse, it is slowly dying after eating a plastic bag thinking it was a jellyfish. It's sad, isn't it? But it's the reality. And this is not just about turtles. It's about us; our manners, our trash and the world we're leaving behind.

Today, I want to share how a trip to Okinawa opened my eyes and why one turtle changed my life.

This March, my family and I went on a short three-day trip to Okinawa. I had so much fun and discovered a lot of interesting things. It was one of the most unforgettable experiences of my life. We visited the Churaumi Aquarium, and that's where everything changed for me.

I've loved the sea turtles from the Disney movie, Finding Nemo, since I was a child. However, I'd never seen one in real life. So, when I stood in front of the giant tank and saw them for the first time I was mesmerized. It looked like they were dancing in the water. But that wonderful moment soon turned into something very sad. A display case nearby caught my eye. What I saw broke my heart. There were fishing lines, hooks, black plastic bags, pieces of Styrofoam and other trash. I read a panel on display and learned that sea turtles often mistake these things for food and swallow them. If animals swallow these things, they get stuck inside their bodies and cause a lot of pain, often leading to death. I found that hundreds of turtles die this way every year.

I saw photos of a turtle with fishing lines wrapped tightly around its flippers. The injuries were severe. Thankfully its wounds were treated but even after treatment, the scars remained. Another photo showed a turtle that had swallowed ten plastic bags. They were on display, dirty plastics bags that had once floated in the ocean. Seeing those images made me realize how unaware I had been of this problem.

This trip to Okinawa wasn't just a vacation. It was an awakening. It made me see the truth. I asked myself, "What can I do to help?" I think that the most effective solution is simple; stop using plastic. However, that's easier said than done. Plastic is everywhere, from packaging, clothing, and everyday items. It's important for us to be responsible for our own actions. As for me, I always carry a reusable eco-bag. I also sort my trash carefully. It may be a simple action but I'm sure it will make a difference.

Someday, I want to go back to Okinawa to protect the sea turtles I fell in love with. I want to clean up the beaches to create an environment where sea turtles can live safely and peacefully. However, I can't easily do it. I will keep learning, caring and acting because no matter how far we may be from the ocean, we're all connected to it.

And sometimes, all it takes is one turtle to change your life.

中学生による英語弁論 日本語訳

## 私の人生を変えたウミガメ

沖縄の透き通った海を泳いでいるところを想像してみてください。暖かい太陽、そして海のさざ波を満喫しています。そしてあなたの下には、海を自由気ままに泳いでいるウミガメがいます。では、網に絡まったウミガメが、その網から逃れようともがいてる姿を想像してみてください。ウミガメは海に沈んだビニール袋をクラゲだと勘違いして食べてしまい、死んでしまいます。本当に悲しいことです。しかし、それが現実です。そしてそれはウミガメだけの問題ではありません。私たちのマナーやごみ、そして私たちが残していく世界の問題なのです。

私は、沖縄の旅行が私の目を開かせ、なぜ1匹のウミガメが私の人生を変えたのかを話したいと思います。

今年の3月、私は家族旅行で3日間沖縄へ行きました。とても楽しい旅行で、多くの面白い発見があり、私の人生で一番の思い出となりました。私たち家族は美ら海水族館を訪れ、そこで私の考えの全てが変わる出来事がありました。

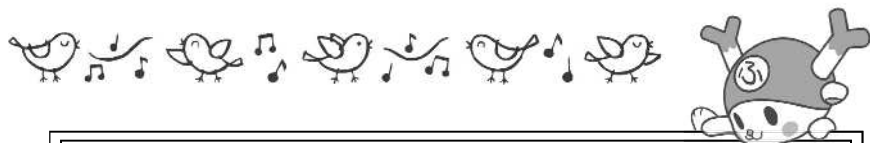
私は映画『ファインディング・ニモ』に出てくるウミガメが子供のころからずっと好きでした。しかし実際にはウミガメを一度も見たことがありませんでした。大きな水槽の前に立ち、初めてウミガメたちを見たときは本当に感動しました。彼らはまるで、水槽でダンスをしているようでした。しかしその素晴らしい時間もすぐに悲しいものになってしまいました。近くにあった展示ケースが目にとまりました。その展示ケースに入っていたものを見て、私は心を痛めました。その展示ケースの中には、海に捨ててあった釣り糸や釣り針、黒いポリ袋や発泡スチロールの破片などがありました。私は、ウミガメたちが時々、それらを間違って食べ、飲み込んでしまうという説明を読みました。ウミガメがごみを飲み込むと、そのごみが体の中にひっかかり、痛みを伴い、最悪の場合、ウミガメは死んでしまいます。数百のウミガメが毎年このように死んでしまうという現実を知りました。

また、ひれ足の周りにきつく釣り糸が巻き付いたウミガメの写真も見ました。けがはひどいものでした。幸いなことに傷は治りましたが、傷跡が残っていました。他にも10枚ものビニール袋を飲み込んだウミガメの写真がありました。ウミガメが飲み込んだビニール袋は展示されており、それは海に捨てられたものでした。私はその展示を見ることで、いかに私が海の環境問題について意識が低かったかということに気づかされました。

この沖縄への旅行は単なる休暇ではありませんでした。私にとって大きな衝撃であり、現実に向き合わせてくれました。“私はウミガメを助けるために何ができるのだろうか”と私自身に問いかけました。最も効果的な解決策は単純なことだと思います。それはプラスチックを使わないことです。言うことは簡単ですが、それを実行することは難しいです。なぜなら、プラスチックは梱包、衣服、日用品など至る所で使われているからです。私たちにできることは自身の行動に責任を持つことです。私はいつも再利用可能なエコバックを持ち歩いています。ごみの分別も注意深く行っています。小さな行動かもしれませんが、この小さな行動こそが違いを生むと確信しています。

いつの日か好きなウミガメを守るために沖縄に戻りたいと思います。ウミガメが安全に、平和に生活できる環境を作るために砂浜をきれいにしたいです。なぜなら、どんなに海が遠くても、私たちは海とつながっているからです。私はこれからも海の環境について学び、関心を持ちながら、行動し続けようと思います。

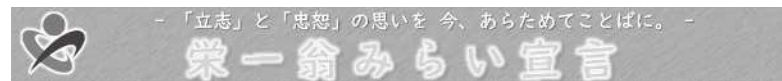
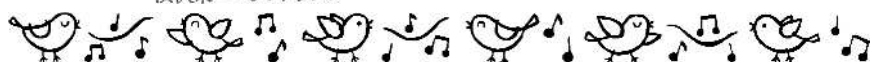
そして時には、たった1匹のウミガメとの出会いが、あなたの人生を変えるかもしれません。



## 子どもの暗唱 ～言葉と心を声にのせて～

主催 深谷地方ユネスコ協会 深谷市教育委員会

| No. | 学校名<br>(人)    | 学 年         | ふりがな<br>名 前                                             | 暗唱する作品                |
|-----|---------------|-------------|---------------------------------------------------------|-----------------------|
| 1   | 常盤小学校<br>(2)  | 4<br>4      | ましも 眞下 紗名<br>やまざき さつき<br>山崎 皐                           | 明日<br>ありがとう           |
| 2   | 藤沢小学校<br>(1)  | 3           | ひるかわ ことな<br>蛭川 琴菜                                       | 寿限無<br>「おはつ」のびよん      |
| 3   | 常盤小学校<br>(2)  | 1<br>1      | ましも 眞下 紋名<br>おぶき みそら<br>尾吹 美穹                           | 人権の詩（こころのうた）<br>どきん   |
| 4   | 深谷西小学校<br>(1) | 3           | ながと なな<br>長戸 なな                                         | わたしと小鳥とすずと<br>なにかをひとつ |
| 5   | 常盤小学校<br>(2)  | 2<br>1      | せきぐち ゆうこ<br>関口 結子<br>えんどう りか<br>遠藤 梨華                   | 論語<br>みんな             |
| 6   | 深谷西小学校<br>(3) | 5<br>4<br>1 | たけい るか<br>武井 瑠華<br>たけい りか<br>武井 璃華<br>たけい いちか<br>武井 彩千華 | 論語<br>月と雲             |



### 事業の目的

深谷市教育委員会では、平成24年度から、「立志と忠恕の深谷教育」のもと、「渋沢栄一翁のこころを受け継ぐ教育」を掲げ、目指すこども像「夢とこころざしをもち、まごころと思いやりのある深谷の子」の実現のため、教育委員会、学校、家庭・地域の三者が一体となって、さまざまな取組を進めています。

栄一翁の「立志（夢とこころざし）」と「忠恕（まごころと思いやり）」の精神は、これからの激動の社会を生きる人々の道しるべとなるものであります。令和6年7月3日の新一万円札発行を機に、栄一翁の精神にも一層注目が集まる中、立志と忠恕の精神をより多くの方に広げるとともに、多くの方の生き方の糧としていけるよう、自らの思いを綴る「栄一翁みらい宣言」を募集しました。

### 部 門

- ①小学校1～3年生の部 ②小学校4～6年生の部
- ③中学生の部 ④高校・大学・一般の部

### 応募数

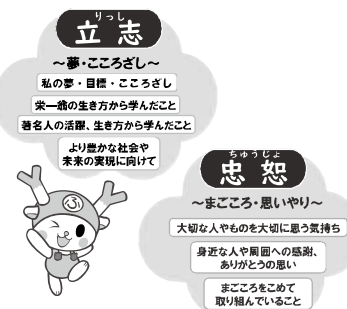
|              |         |
|--------------|---------|
| 【小学校1～3年生の部】 | 2, 929点 |
| 【小学校4～6年生の部】 | 3, 140点 |
| 【中学生の部】      | 3, 129点 |
| 【高校・大学・一般の部】 | 753点    |
| 合 計          | 9, 951点 |

### 賞

各 部 門 テーマごとに最優秀賞 1点 優秀賞 2点

### 審査基準

- 作者の体験等、具体的な内容であるもの
- 立志や忠恕ということに対しての捉え方がしっかりしているもの  
立志：志を立て、それを成し遂げようと決心すること  
忠恕：誠実さや他人への思いやり（転じて、周りから受けた心遣いへの感謝）
- 個人の内だけでなく、広く社会へ目を向けているもの







## 《 最優秀賞 小学校1～3年生 立志の部 》

### おうちやさんになるために

すぎもと かずほ  
深谷小学校 1年 梶本 一帆

ぼくのゆめは、おうちやさんになることです。ようちえんのときにあきばこでけえきやとけい、じえつとおすたあをつくって、じぶんでかんがえてつくるのがおもしろかったので、こんどはほんもののおうちをつくりたいとおもいました。

いごこちのいいおうちをつくるためには、すむひとのことをかんがえてつくらないといけません。

ぼくのおとうさんは、ほんやおきものをたくさんもっているのですが、しまえるたながたくさんあるおうちをつくってあげます。おかあさんはあしがいたいので、かいだんがないおうちをつくってあげます。いもうとはさむがりなので、あたたかいおうちをつくってあげます。

ぼくはいつもかぞくやおともだちのきもちをかんがえながらせいかつしていけるひとになりたいです。



## 《 優秀賞 小学校1～3年生 立志の部 》

### みんなをえがおにしたい

さいとう むく  
明戸小学校 1年 斉藤 棕

ぼくは、たのしいことをしたり、かぞくやともだちとあそんだり、おはなしすることがだいすきです。

ぼくは、大きくなったら、みんなをえがおにするはつ明家になりたいです。

ぼくのはつ明で、みんなのやくにたてるようにします。

タイムマシンをつくって、かこやみらいにいけたら、みんながえがおになれそうです。

しゅさわえいいいちは、みんなとなかよくして、みんながしあわせにくらせるようにがんばったひとです。

ぼくはいま、はつ明家になれるようにたくさん本をよんでいます。けいさんもがんばっています。大すきなかぞくやともだちとずっとなかよくします。

いつかぼくのはつ明で、せかいじゅうの人をえがおにしたいです。



## 《 優秀賞 小学校1～3年生 立志の部 》

### ぼくのしょうらいのゆめ

てるい ゆう  
常盤小学校 3年 照井 裕

ぼくのしょうらいのゆめは、つうやく者になりたいです。日本語が理解できない人を助けたいからです。

ぼくのおばあちゃんが中国人です。ぼくは小さい時から中国語を習っています。

おばあちゃんが日本語があんまりできなくて、日本に来たときは、こまることがたくさんあります。

おばあちゃんがこまっているときは、ぼくがいつもつうやくをしてあげています。おばあちゃんがいつもうれしそうに「ありがとう」と言ってくれます。

ぼくはおばあちゃんみたいに日本語が理解できない人をたくさんたすけたいと思います。なぜかという「ありがとう」を言われるのがとてもうれしいからです。

ぼくは栄一翁のように、たくさんべんきょうをしていきたいです。



## 《 最優秀賞 小学校4～6年生 立志の部 》

### イラストレーターという夢

こばやし なつね  
常盤小学校 6年 小林 夏寧

わたしの夢は、イラストレーターになることです。

わたしは絵をかくことが好きなので、ただひたすらに、一人で絵をかいていました。しかし、最近になってそれがまちが이었다と悟ったのです。

一人で絵をかくよりも、友だちと話したり、学校で知らないことを学んだりすることが絵のアイディアにつながるのだと気づいたのです。

そこでわたしは思いました。忠恕は立志とむすびついているのではないかと。なぜなら、「人と関わり、人のおもいやりにふれることで、夢が生まれ、めぐりめぐって人を豊かにすることができる」と考えたからです。

わたしは、これから人と夢を大切にしていきたいです。そして、人に夢や希望をあたえられるようなイラストレーターになります。



## 《 優秀賞 小学校4～6年生 立志の部 》

### 努力は実る

あかぬま ももか  
岡部小学校 6年 赤沼 杏香

「子曰く性相近し、習い相遠し」。これは、私の好きな論語です。学校の暗唱で知りました。「人は生まれつきの性質はほとんど同じだけれど、その後の習慣や学びによって、大きなちがいが生まれる。」という意味です。

なぜ好きかというと、頑張れる気持ちになれるからです。努力すれば必ず結果が出ると言ってくれていると思ったからです。

私は、書道を習っています。はじめは、どんな字が良いのかもわかりませんでした。学校で硬筆や書初めがあり、練習を頑張りました。4年生から学校代表になることができました。頑張ることで良い結果を出すことができました。

努力は必ず実ります。どんな事もあきらめずにくり返しやっていきたいです。



## 《 優秀賞 小学校4～6年生 立志の部 》

### 自分を信じて

おがわ のあ  
川本北小学校 6年 小川 乃愛

私の夢は保育士になることです。私は保育園に通っていた幼いころから保育士になりたいという夢をずっと持ち続けていました。私はこの夢をかなえるためにピアノを習ったり、保育士体験をしたりと日々努力しています。しかし、実際体験すると「子どもの気持ちを読み取るのはむずかしいなあ。」と感じました。

最近私は、いろいろな職業を知り、この職業すてきだなと少し気持ちに変化がありました。私は夢がたくさんあることはとてもすてきなことだと思います。ただ、私はどんな選択をしても自分の信じた道を進みたいです。何事も夢や目標をもって取り組みたいと思います。私は自分の進んだ道が楽しくても悲しくてもいつかきつと良いことにつながっていくと思います。なので、何事も自分を信じて、たくさんことに挑戦していきたいです。



## 《 最優秀賞 中学生 立志の部 》

### 将来の日本の農業

かじの ゆうま  
南中学校 3年 梶野 悠真

僕は将来の夢があります。  
それは農家になることです。深谷市は農業が発達している市で、川の土壌がネギの栽培に適しているので深谷ネギが生まれたのだと知り、農業に興味を持ちました。  
深谷市だけでなく全国で今農家の数が減っているという現状があるので若いうちに農業の仕事に就いて、日本の農業をパワーアップさせたいです。  
そして、僕の個人の目標は、農業を使い様々な観光業を開業することです。今までの農業のように育てたものを出荷するだけでなくイチゴ狩りやブドウ狩りのように野菜でも同じような活動をし、たくさんの人に農業に興味を示してほしいです。そのようにしてたくさんの人の支持を得て日本の農業を底上げしたいです。  
農業に長け、農業のしやすい深谷で新しい農業を全国に広めたいです。



## 《 優秀賞 中学生 立志の部 》

### 笑顔を大切にする姿

たむら かのん  
藤沢中学校 3年 田村 花音

私には憧れている人がいる。それは小学校の先生だ。誰に対しても平等に接し、平等に笑顔を向けるその姿に胸を打たれた。  
私の将来の夢はカウンセラーになることだ。もちろん、友達に話したときは、「え？先生じゃないの？」と言われた。しかし、私が憧れているのは、「先生」という職業ではなく、「誰にでも平等に接し、笑顔を大切にしている姿」なのだ。私がカウンセラーになるにあたって、その姿は、最も重要な要素だと思う。もし、私が笑顔を大切にすることができなかつたら、相手に寄り添い、自信を持ってカウンセリングできないだろう。  
将来、自信を持ってカウンセリングし、憧れの人に少しでも近づけるようにするために、日々の学校生活から笑顔を大切に、誰にでも平等に接せられるようにしていきたい。



## 《 優秀賞 中学生 立志の部 》

### 栄一翁の生き方から学んだこと

こいけ めいな  
南中学校 1年 小池 芽衣菜

「深谷の子六つの誓い」の中で私が特に大切にしたいと考えているものは「毎日勉強します。」という誓いです。私はこの言葉を実現するために毎日コツコツと勉強することを目標にしています。  
私は小学生の頃は勉強が苦手です。宿題以上の勉強はしていませんでした。しかし、中学生になり図書館で渋沢栄一翁の「論語と算盤」を読みました。その中で栄一翁は「人間が世で生きていく上で、最も大切なこと。それは知恵を増やしていくことです。」と言っています。この言葉から私は勉強をして知恵を身につけることで正しい判断力を養い、自分自身や社会にとってよりよい未来をつくりたいと考えています。  
そのために、毎日きちんと勉強して日々の生活でも自分のためだけでなく、周りの人のために考えて正しい行動ができる人になりたいです。



## 《 最優秀賞 高校・大学・一般 立志の部 》

### 成人

ほんだ そうた  
東京成徳大学深谷高等学校 3年 本多 蒼汰

私は18歳になり、選挙権を得ました。これは大人の仲間入りをしたというだけではなく、社会をよりよくする一員としての責任を持つということだと感じています。今の日本には、少子高齢化や経済の不安定さ、地球環境の問題など、さまざまな課題があります。こうした問題に対して、若い世代が自分の意見を持ち、行動することがこれからの社会にとって必要だと思います。私は、ただ与えられた選挙権を使うのではなく、自分の頭で考え、自分の意志で社会に関わっていききたいです。そしてその姿勢の大切さを渋沢栄一翁から学びました。彼は論語と算盤、つまり道徳と経済は両立すべきだと説き、社会に役立つことを志とする生き方を貫きました。私も栄一翁のように誰が為にと意識し、自分の選択や行動が誰かの未来につながっていることを忘れず責任をもった行動をしていきたい。



## 《 優秀賞 高校・大学・一般 立志の部 》

### 笑顔を届けるために

まつもと りん  
東京成徳大学深谷高等学校 2年 松本 凜

私は将来就きたい職業は決まっていません。ですが、学びたいことはあります。それは、「経済学と経営学」です。私の祖父母は自営業でお店を営んでいます。私は小さい頃からお客さんの笑顔でいっぱい祖父母のお店が好きで、いつしか私もたくさんの人を笑顔にさせたいと思うようになりました。  
ある日、テレビの番組で百貨店の商品開発の現場を見ました。その時から私は人に喜んでもらえるものをつくりたいと思い商品開発に興味をもち始めました。深谷市のアントレプレナーシップに参加して深谷市を盛り上げるイベントを考え話したり、祖父母の仕事を手伝ってみたり、さまざまな経験をするために挑戦を続けています。いつか学んだことや自分の経験を活かし多くの人に笑顔をお届けられるような仕事をしたいです。



## 《 優秀賞 高校・大学・一般 立志の部 》

### きっとあなたも誰かのヒーロー

あそう なおや  
麻生 直也

「将来は仮面ライダーになりたい！」  
そう言った小さい頃の夢、今でも叶うのかもしれない。  
みんなが幸せになれる未来を作るのはたった1人で叶えられるはずがない。でも、あなたの“ちょっといい日”は作れる。  
たとえば、落ち込んでる友達に横に黙って座る。テスト前に「これだけ覚えとけ」って一言メモを渡す。場が重たければ、スベってもいいから笑わせにいく。僕にできるのは、世界を救うことじゃない。でも、「隣の人の一日」を少しマシにすることができたなら、それはみんなのヒーローになれるのではないかな。  
夢なんて抽象的でもいい。幸せなんてそれぞれなんだから。あなたの隣の人が笑っていれば、それは誰かにとってあなたは「ヒーロー」になれる。それがめぐりめぐって、みんなの幸せに繋がっていくと信じている。



## 《 最優秀賞 小学校1～3年生 忠恕の部 》

### 感しゃの気持ち

本郷小学校 3年 いいの みつき  
飯野 充貴

ぼくが感しゃの気もちをつたえたいのは、地いきの人たちです。なぜかと言うと、とう校中見守ってくれたり毎年とうもろこしのしゅうかく体けんをさせてくれたりするからです。毎日学校へ行くときに「おはよう」と声をかけてくれるのでとてもうれしくなります。下校する時も時間に合わせて道に立って「さようなら」と声をかけてくれるので、あんな気持ちで下校できます。

また、毎年おいしいとうもろこしのしゅうかく体けんや本ごう小まつりなどのイベントが地いきのかたのきょう力があってできています。

地いきの人たちの見守りときょう力があるのでぼくたちは、あんなで楽しい学校生活がおくれています。ありがとうの気もちを今度つたえたいです。

そして、ぼくも大人になったら本ごう小の子どもたちを見守る大人になりたいです。



## 《 優秀賞 小学校1～3年生 忠恕の部 》

### ことばのちから

常盤小学校 1年 うえもと いちか  
上本 伊千花

わたしは、おうちやがっこうで、ことばづかいをきをつけています。わたしがことばにきをつけてはなすことで、まわりのひともじぶんもたのしくすごすことができますとおもったからです。

わたしはピアノのはっぱようかいでドキドキしてたとき、ピアノのせんせいはげましてもらいました。とてもうれしかったです。わたしもまわりのひとをはげませるようになりたいです。

そのために、まごころのこもったことばをつかいます。まわりのひとたちにありがとうとかんしゃのきもちをつたえます。ひとをきずつけることばをつかいません。しぶさわえいいちおうのこころざしたちゅうじょのこころをことばであらわして、これからたのしくすごしていきたいとおもいます。



## 《 優秀賞 小学校1～3年生 忠恕の部 》

### あたりまえのことがあたりまえでないこと

常盤小学校 3年 いしかわ そういちろう  
石川 総一朗

朝、おきたら朝ごはんがつくえの上にじゅんびされていること。朝、たわいもない話で家ぞくとわらえること。朝、元気に「行ってきます。」が言えること。朝、登校はんで友だちに会えること。学校でいつも通り友だちと話せること。

お母さんが入院している時、いつも通りの朝ごはんではなかった。ぴょうきで学校を休んだら、家ぞくと元気で話せないし、「行ってきます。」も言えない。登校はんの友だちが速くに転校してしまって、もっとたくさんお話すればよかった。学校の友だちも、クラスがかわるとなかなか話せなくなってさみしい。

全部が全部、たくさんの当たり前があるけど、一つ一つが当たり前ではなくて、感しゃの気持ちにあふれたたから物だと気がついた。これからも一口一口を大切に生きていきたいと思う。



## 《 最優秀賞 小学校4～6年生 忠恕の部 》

### 花への思い

岡部小学校 6年 じんぐう ひかる  
神宮 輝

みなさんは、花の気持ちを考えたことがありますか。

ぼくは栽培委員です。栽培委員の活動で、花の水やりがあります。初めは「毎週やるのは大変だな。とりあえずやればいいか。」と考えながら活動していました。

一か月たった時、ぼくの考えが変わりました。学校を休み、水やりができない週がありました。次の週に花の様子を見てみると、少ししおれている花がありました。その花を見て、かわいそうだなと思いました。花にも思いがあるんだなと思いました。

栄一翁は「まごころ・思いやり」の心を大切にしていました。それは、人に対してだけでなく、花などの植物に対してもいえることだと思います。栽培委員として残りの期間、花が元気に育つようにまごころをもって世話をしていきます。



## 《 優秀賞 小学校4～6年生 忠恕の部 》

### ありがとう

常盤小学校 6年 かさもと  
笠本 あかり

私は毎日ありがとうを言うことを心がけています。なぜならありがとうと感謝の気持ちを伝えると気分が良くなり、気持ちがすっきりするからです。例えば忘れ物をした時に、友達が貸してくれた！こんな時は少しだけもうしわけない気持ちになります。でもその時に「ありがとう」と言って返せば貸してくれてうれしかったよという気持ちがよく伝わります。

栄一翁は人から感謝される事が多かったと思います。人から感謝されるとうれしくなります。ありがとうを言った方、言われた方、二人ともうれしい気持ちになります。

感謝の気持ちを人に伝えることは生きていくうえで大切だと思います。栄一翁は忠恕の心を大切にしたらすすい事が出来たんだと思います。私も立志と忠恕を大切に生活していこうと思います。



## 《 優秀賞 小学校4～6年生 忠恕の部 》

### ぼくの大切な家族

岡部小学校 4年 みやぜき けいと  
宮関 恵大

去年の夏、ぼくの家の中に子ねがあらわれました。周りにお母さんがいるかもしれないので、しばらく様子を見ました。でも、お母さんはいなくて、おなかがいっぱいたおれてしまいました。あわててごはんを買ってきてあげました。ぼくは心配だったので、すぐに飼いたいと思いました。でも、お母さんに「命は重いから大変な時でも一生面倒を見れるの。」と聞かれました。ぼくは、外で世話をしながら本当にできるのか考えました。でもぼくは、やっぱり家族になりたいと思いました。今、ねことくらし始めて一年になりました。今は、すっかり元気になって、ぼくにについて毎日しあわせです。これから年をとって病気になるかもしれないけれど、ぼくは、一生守ってあげたいです。ぼくの家族になってくれてありがとう。





## 《 最優秀賞 中学生 忠恕の部 》

### 伝えたい『ありがとう』

たけのや さくらこ  
南中学校 3年 竹ノ谷 咲花子

私が今一番感謝を伝えたい人は父です。なぜなら父には感謝をしてもしきれないほどたくさんお世話になったからです。

私の父の出身はネパールで、父は母国ではない日本で約17年間の間はたつき続けてくれました。初めは言葉も文化も分からず、辛いことばかりだったそうです。それでも私たち兄妹、そして家族みんなのために一生懸命働いてくれました。あのマメだらけのごつごつとした大きな手、中学校の環境整備で汗まみれになりながら草むしりをしていた父、困っている人がいたら助けずにはいられないお人好しの父、そんな父の姿が忘れられません。

今、直接「ありがとう」を伝えることはできないけれど、いつも家族みんなを支えてくれたあの父の笑顔をお忘れずに、いつか天国でたくさんの感謝を伝えたいです。



## 《 優秀賞 中学校 忠恕の部 》

### 言葉を『選ぶ』人

わしお かほ  
幡羅中学校 3年 鷲尾 香歩

私は日々心がけていることがある。丁寧な言葉を使うこと、よく考えてから発言することだ。

小学生の頃、先生に、「言葉には心が宿っているんだよ。」と言われたことが強く心に残っている。幼いながらに、納得した。その時「キライ」などの言って後悔した言葉、言われて悲しかった言葉を思い出した。同時に、たくさんの「ありがとう」や、朝多くの人が笑顔で言ってくれる「おはよう」などを思い出した。同じ「人」が選ぶ言葉なのに、まるで感じ方が違って思えたのだ。それ以降、私は言葉づかいを意識するようになった。

私は学校の先生になる、という夢がある。教える立場になるには、言葉づかいは気づかなければならない。自分のためにも、相手のためにも、優しい言葉を選ぶ人でありたい。



## 《 優秀賞 中学校 忠恕の部 》

### 受験を乗り越えるために

みざわ ももか  
幡羅中学校 3年 三澤 百香

私は今年受験生です。受験という大きな壁にぶちあたる時、自分の中にある不安やいらだちを親にぶつけてしまうことがあります。そんな時、私は大河ドラマで見た栄一翁の母であるえいさんの言葉を思い出します。それは「あんたがうれしいだけじゃなくて、みんながうれしいのが一番なんだ。」です。この言葉により栄一翁は社会全体の利益を追求する偉人となれたそうです。私もこの言葉を聞くと支えてくれていることの感謝を思うと同時に「なんでこんなことをしたのだろう」と自分の心と向き合えるようになりました。

受験は自分との戦いです。ですが、その陰で支えてくれる親や友達、先生方がいます。その感謝をお忘れずに栄一翁のように、みんなを嬉しい気持ちにさせられるよう、日々感謝をお忘れず努力していきたいです。



## 《 最優秀賞 高校・大学・一般 忠恕の部 》

### 一緒に戦った川本中陸上部のみんなへ

すずき いろは  
松山女子高等学校 1年 鈴木 彩花

関東、全国出場を本気で叶えようと陸上に取り組んだ三年間。「思いは叶う」この言葉を信じてがむしゃらにやってきた。だからこそ今までの人生で一番悩んだし、一番泣いた。でも、いつも近くには仲間がいた。辛いことも、悩んでいることも吹き飛ばすくらい面白い男子。大会のたびに「絶対大丈夫、行けるよ。」とパワーをくれると共にスタートラインに立てばライバルになる親友。最後まで私の力を信じて、全力で指導をして下さった先生。部活に行きたくなくて、泣いた日もあった。でも、みんなの存在が私を支えて、強くしてくれた。ほぼ毎日部活に通い、会っているからこそ、親友との少しギクシャクした時間も生まれた。けれど、今では笑い話。人との出会いが自分の見える世界を変え、色付けていく。運命という言葉を感じ、証明された三年間だった。出会ってくれてありがとう。



## 《 優秀賞 高校・大学・一般 忠恕の部 》

### お母さんありがとう

はしもと あかね  
東京成徳大学深谷高等学校 3年 橋本 朱音

私には兄弟が4人います。全員2つずつ離れていて、とても仲が良いです。そんな私達を支えてくれているのが母です。みんな元気が有り余っていて沢山食べます。それが4人となれば一人で抱えきれないと思います。いつもみんなのために頑張っている母の姿はとても強くカッコいいです。決して弱い所は見せず優しく場を包み込んでくれ毎日が楽しいです。人数が多いと家事でのやるべき事が重なり、母が帰るまでに全て終わらせられるよう4人協力して日々を終えています。色んな事で迷惑をかけ続け、困らせてばかりだけどその分一つでも母のやる事が少なくなるよう努めてきました。母のご飯が世界一美味しくてそのおかげで毎日みんな元気です。

これからもこの日常がずっと続くよう、4人で支えていこうと思っています。尊敬する所しかない自慢のお母さん、いつもありがとう。



## 《 優秀賞 高校・大学・一般 忠恕の部 》

### 命をつなぐ救急隊に感謝を込めて

やまぐち さおり  
山口 紗織

みなさんは命を救ってもらった経験がありますか？私は看護師をしています。毎日、何人もの患者さんが救急隊によって病院へ運ばれてきます。救急隊の方々は、一刻を争う緊急事態の中でも冷静に対応し、患者さんやその家族に寄り添い、状況を聞き出し、医療と患者さんを繋いでくれます。24時間体制で出勤に備え、迅速な医療介入のため全力を尽くしてくれています。そこには強い精神力と使命感、底なしの体力と思いやりが溢れているのを感じます。

いつも患者さんを安全に運んでくださりありがとうございます。日々感謝しております。これからも、命を救うチームとして、よろしく願います。病院と患者さんを繋いでくれる救急隊の皆様へ心からの感謝を込めて。



# 「3つの運動」標語コンクール

## —作品紹介—

### 目 的

深谷市子どもサポート市民会議では、青少年の健全育成のために、次のような3つの運動を推進しています。脱いだ靴をそろえよう、すすんであいさつをしよう、ことばを大切にしようという「3つの運動」は、青少年が夢をもち、他者を思いやりながら、けじめやコミュニケーションの重要性を意識しつつ、心豊かに生活できるようにという思いから、推進しているものです。

「3つの運動」標語コンクールは、この運動を再認識し、理解を深めてもらうために、市内小学校に在籍する4年生から6年生までの児童を対象に行っているものです。

### 対象者

市内小学校在籍の4年生から6年生

### 募集作品

「3つの運動」（脱いだ靴をそろえよう、すすんであいさつをしよう、ことばを大切にしよう）のうち、「脱いだ靴をそろえよう」をテーマにした標語

### 応募数

2, 561点

### 賞

最優秀賞 1点、優秀賞 2点、優良賞 16点

※深谷市子どもサポート市民会議役員会にて、審査会を開催しました。



## 「3つの運動」標語コンクール受賞作品

### 最優秀賞

(順不同)

前を向く くつも自分も まっすぐと

桜ヶ丘小学校 4年 えのもと 榎本 せいこ 晴吾

### 優秀賞

「ただいま」と かかとをそろえて 「また明日」

八基小学校 6年 わんなん 渡邊 るり 瑠璃

そろえると 靴の笑顔が 見えてくる

藤沢小学校 5年 はくも 南雲 けんと 絢斗

### 優良賞

ただいまと 一緒にやろう くつそろえ

深谷小学校 5年 しゅう 伊藤 さあ 葵生

ならんだくつ はいて元気に 「行ってきます」

深谷西小学校 5年 ひろき 佐々木 しおり

ぬいだくつ 気持ちといっしょに そろえよう

上柴東小学校 5年 たかはし 高橋 ひよみ 暦

初めの一步、くつをそろえて、心をきれいに

上柴西小学校 4年 かとう 加藤 ひまり 愛菜

ぬいだ靴、そろえて心もさわやかだ

幡羅小学校 6年 しまやま 島山 ゆあ 結愛

いってきます そろえたくつで げんきよく

常盤小学校 4年 よした 吉田 ひなた 陽音

## 「3つの運動」標語コンクール受賞作品

|                          |        |    |        |
|--------------------------|--------|----|--------|
| 「ただいま」と セットでやろう くつそろえ    | 明戸小学校  | 5年 | 福島 颯太  |
| くつそろえ 心のみだれも ととのえよう      | 大寄小学校  | 5年 | 高木 駿   |
| ぬいだくつ ちゃんとそろえて「おじゃまします。」 | 豊里小学校  | 6年 | 川田 娘粋  |
| 脱いだくつ 心とともに 整えよう         | 岡部小学校  | 6年 | 実崎 希愛  |
| 脱いだ靴 きれいな気持ち そろえよう       | 榛沢小学校  | 6年 | 内田 唯愛  |
| くつそろえ くつも心も 整うよ          | 本郷小学校  | 5年 | 清水 暁光  |
| おじゃまします 伝えたあとには くつそろえ    | 岡部西小学校 | 6年 | 後藤 心優  |
| くつそろえ 気持ち整う 心地よさ         | 川本北小学校 | 6年 | 五十嵐 海翔 |
| 脱いだ靴、心も一緒に整えよう！！         | 川本南小学校 | 6年 | 宮田 愛梨  |
| そろえよう くつも自分も よい気持ち       | 花園小学校  | 4年 | 真下 愛梨  |

令和7年度

## 「絆・ふれあい」ポスターコンクール

—作品紹介—

### 目的

深谷市子どもサポート市民会議では、「絆・ふれあい」をテーマにしたポスターを募集し、広く展示することにより、こどもたちが日常生活における人とのふれあいやつながりを再認識し、地域社会ではお互い支え合って生きていることを理解し、青少年健全育成を推進する契機となると考えています。

この機会に、絆やふれあいについて、話し合ってみてはいかがでしょうか。

### 対象者

市内小学校在籍の1年生から3年生

### 募集作品

こどもたちが様々な人たちとふれあい、絆を深め、夢や希望を持ちながら成長・活躍している様子を描いたもの

### 応募数

418点

### 賞

最優秀賞 1点、優秀賞 2点、優良賞 15点

※深谷市子どもサポート市民会議役員会にて、審査会を開催しました。



最優秀賞



「弟をつれて学校へ」  
花園小学校 3年 いがらし 五十嵐 こむぎ 小麦

優秀賞 (2作品)



「友とのきずな」  
岡部西小学校 3年 もてぎ 茂木 ゆきと 優貴斗



「おばあちゃんをかこんで」  
常盤小学校 3年 おかき 岡木 ゆな 結奈

優良賞 (15作品)



「笑顔と絆」  
深谷小学校 3年 ひらの 平野 あいな 愛奈



「ホームランきょうそう」  
桜ヶ丘小学校 3年 やちだ はるふみ 谷内田 悠文



「夢いっぱいわくわく絆ワールド」  
藤沢小学校 1年 つかごし 塚越 あかり



「みんなで花火」  
上柴東小学校 2年 いしだ 石田 ゆか 結花



「家ぞくでヒスイ海岸で泳いだよ!」  
明戸小学校 3年 やすだ 安田 かい 開



「手をつなぐと しあわせがひろがる」  
大寄小学校 1年 たかだ 高田 はんな 絆菜



「絆・ふれあい」ポスターコンクール 受賞作品



「ぼくのかわいい妹」

岡部小学校 3年 しみず げんと  
清水 元翔



「かぞくみんなでパーティーしたよ」

深谷西小学校 1年 かない みくり  
金井 美菊理



「弟がうまれたよ」

川本北小学校 2年 ほその かいせい  
細野 權生



「みんなで たべると おいしいな」

川本南小学校 1年 まつざき ゆき  
松崎 友紀



「ぼくの弟」

上柴西小学校 2年 くらかみ あいと  
倉上 愛大

「絆・ふれあい」ポスターコンクール 受賞作品



「あつまれ！ワッショイ！」

幡羅小学校 3年 しまざき まな  
嶋崎 真菜



「ぼくのこころの木」

豊里小学校 3年 かわた りゅうが  
河田 琉雅



「南魚沼12泊キャンプ  
～仲間とすごした大切な時間～」

本郷小学校 3年 ちだ けんた  
千田 健太



「これからはわたしがつなぐよ ご先祖様との絆」

榛沢小学校 3年 しみず めい  
清水 萌生





3つの  
運動

深谷市  
FUKAYA

FUKKACHAN

脱いだ靴をそろえよう  
すすんであいさつをしよう  
ことばを大切にしよう

深谷市子どもサポート市民会議

● 深谷市子どもサポート市民会議では、次の団体と協力して3つの運動を展開しています

○深谷地区青少年健全育成会 ○藤沢地区青少年健全育成会 ○幡羅地区青少年健全育成会 ○明戸地区青少年健全育成会 ○大寄地区青少年健全育成会  
○八基地区青少年健全育成会 ○豊里地区青少年健全育成会 ○上柴地区青少年健全育成会 ○南地区青少年健全育成会 ○岡部地区青少年健全育成会  
○川本地区青少年健全育成会 ○花園地区青少年健全育成会 ○深谷市子ども会育成連合会 ○深谷市青少年相談員協議会 ○ボーイスカウト深谷第1団  
○ボーイスカウト深谷第2団 ○ガールスカウト埼玉県第58団 ○深谷市スポーツ少年団 ○ふかや4Hクラブ ○深谷市幼稚園PTA連合会  
○深谷市PTA連合会 ○高等学校PTA代表 ○深谷市民生委員・児童委員協議会 ○深谷地区保護司会 ○更生保護女性会  
○深谷警察署少年非行防止ボランティア連絡会 ○寄居警察署少年非行防止ボランティア連絡会 ○深谷市手をつなぐ育成会 ○熊谷人権擁護委員協議会深谷部会  
○深谷市自治会連合会 ○一般社団法人深谷青年会議所 ○深谷市スポーツ協会 ○深谷モロロジー事務所 ○交通指導員代表 ○深谷市交通安全母の会  
○深谷ライオンズクラブ ○深谷ロータリークラブ ○深谷東ロータリークラブ ○深谷商工会議所 ○ふかや市商工会 ○深谷商店街連合会 ○深谷市老人クラブ連合会  
○深谷市社会福祉協議会 ○深谷公民館 ○藤沢公民館 ○幡羅公民館 ○明戸公民館 ○大寄公民館 ○八基公民館 ○豊里公民館 ○上柴公民館  
○南公民館 ○岡部公民館 ○川本公民館 ○花園公民館 ○深谷警察署生活安全課 ○寄居警察署生活安全課 ○深谷市民間保育協議会  
○幼稚園代表 ○深谷市校長会 ○高等学校代表 ○深谷市薬剤師会 ○公益財団法人深谷市地域振興財団 ○深谷市スポーツ推進委員協議会 ○有識者

(順不同)